

平成28年度 信濃町立信濃小中学校 学校評価
(学校自己評価および学校関係者評価)

1 9年間の系統性・連続性を強化した教育課程及び学習指導

重点目標	具体的取組	○成果 ・ △課題	改善、充実させる方策
学力向上 児童生徒が、夢中になって意欲的に取り組む授業・評価の工夫	教科担任制のもと、教科の本質に触れた専門的な学びを通して、主体的に追究する力を育成する。	○教科担任制により、学習指導が充実した。 △各種調査結果において、学習内容の定着に課題がある。	教師の教科指導力を向上させるとともに、児童生徒・保護者とコミュニケーションをとり、課題の見極めを図る。
	本校児童生徒の育成すべき資質・能力を明確にした、小中一貫9年間のカリキュラムを作成する。	○これまで4年間の実践記録が各教科において蓄積された。 △9年間の見通しが不明確。	学校で育成すべき資質・能力、各学年で付けたい力にそって、9年間を見通したカリキュラムを作成する。

2 児童生徒の能力を一層伸ばす学校独自の特色ある指導

重点目標	具体的取組	○成果 ・ △課題	改善、充実させる方策
読書活動 読書の幅を広げ、質を高める指導・支援の充実	児童生徒が日常的に読書に親しめるように、毎日の朝読書の時間を位置付ける。	○毎朝の10分間読書により、読書の習慣化が図れた。 △個人の読書の量や質に差。	個に応じた丁寧な指導と学級づくりのために必要な取組を考える。
	各教科、総合的な学習の時間等でのラーニングセンター活用により、思考力・表現力を育成する。	○司書による資料の提示や、豊富な情報提供がされている。	更に積極的な活用を進め、付ける力を明確にした授業を実践する。

3 児童生徒の状況に応じた指導・支援

重点目標	具体的取組	○成果 ・ △課題	改善、充実させる方策
特別支援教育 発達障害通級指導教室等の設置による特別支援教育の更なる充実	特別な教育ニーズをもった児童生徒が、本来の力を発揮できるように適切な支援を行う。	○リソースルームや通級指導教室、特別支援学級でのきめ細やかな支援ができています。	更に効率的な支援会議等の運営を検討する。
	特別支援教育コーディネーターやトータルコーディネーターを中心としたチームによる支援を行う。	○多くの教師によるチームでの対応が可能となった。 ○外部人材の適切な助言がある。	外部人材等との連携を図るうえで、学級担任・副担任が主体性を発揮できる仕組みづくりを進める。

4 コミュニケーション能力、自己肯定感を高める指導

重点目標	具体的取組	○成果 ・ △課題	改善、充実させる方策
人権教育 児童生徒が安心して日々を過ごせる学校・学級づくりの推進	差別をなくし、安心して生活できる学校、誰とでも挨拶を交わす学校を児童生徒とともに創る。	○児童生徒会と連携した取組（挨拶運動等）が活発である。	学校生活全体を通じて、相手の気持ちを考えた言動や行動を更に広げる。
	仲間とともに集団の向上ために実践し、困難を乗り越えていく力を育成する。	○人権教育月間（年2回）を中心として、相手意識のある行動等を考える場を設定できた。	学校目標の一つ「克己」を具現化する道徳教育の充実を図る。

5 保護者、地域住民と連携した魅力ある学習指導

重点目標	具体的取組	○成果 ・ △課題	改善、充実させる方策
ふるさと学習の充実 地域の方に協力をいただき推進するふるさと学習の充実	しなの学校応援団の協力を得ながら、地域から学ぶ主体的な学習を実践する。	○多くの領域について、地域の方の支援により本物にふれる学習が推進できた。	地域の特性を地域の方から学ぶ機会を更に充実させる。
	各教科において、ふるさと学習の単元を位置付けることによりより深い学びを実現する。	○黒姫山の成り立ちを探る（理科）等、課題解決型学習の推進と教材研究の充実が図れた。	答えのない問いに対して、主体的・能動的に粘り強く考える力を育成させる。